様式第６号の７

令和4年度　　学校自己評価表（計画）

学番	1	県立新潟高等学校

学　校　運　営　計　画	
学校運営方針	1　高い学力と豊かな人間性を身に付け、社会貢献の気持ちを持つ生徒を育成する。 2　これからの時代に求められる力を高め、深い学びを図る授業や活動を実施する。 3　進められている教育改革を確実に実行できるよう、種々の意識改革に努める。 4　生徒の状況について学年、委員会等で情報を共有し、家庭とも連携して心身ともに健康な学校生活を送らせる。 5　持続可能な学校体制を構築し、業務と健康的な生活のバランスをとるようにする。

昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
成果 ○教育目標の実現に向けて、シラバス作成、各教科での考査問題の精選や研究、GoogleClassroomの活用による授業動画の作成がなされ、授業改善に向け取り組むことができた。 ○生徒の進路希望実現に向け、進路指導部と学年部が組織的に取り組み、進学率向上につなげることができた。 ○新学習指導要領を見据えたカリキュラムの検討を行い、まとめることができた。 課題 ○教職員の授業力、指導力の向上を図る。 ・生徒の知的好奇心を喚起し、生徒が自ら主体的に学び、考える授業を目指す。 ・各分掌・各学年の連携を密にし、校務分掌体制の充実・活性化を図る。 ・担任・副任による組織的、効果的な学級運営により、指導体制の更なる強化を図る。 ・教育相談体制の充実を図る。 ○職員の健康や勤務時間に対する意識を高めていく。	○更なる授業改善により、生徒が主体的に学び、考え、クリティカルシンキングにつながる授業を構築する。	○公開授業・授業研究を学年・教科横断的に取り組むなど一層強化し、また、各教員による「授業に関する調査アンケート」の実施や評価方法の研究により授業力向上を図り、授業の改善と充実を目指す。
	○自らの意思で進路を決定させ、第1希望大学へ合格できる力を付けるよう導く。	○講演会、大学訪問、課題研究等を行うとともに、組織的な指導に努め、現役大学進学率の向上、東大、京大、国公立大医学科等、難関大学への合格者数の増加を目指す。
	○規範意識と自主自律の精神の高揚を図り、リーダーとしての資質を涵養する。	○基本的生活習慣の確立、学習と部活動の両立を図るとともに、学校行事への積極的参加を促す。
	○生徒の全人格的な成長を目指し、家庭との更なる連携強化を図る。	○教育活動の情報を、学校からの便りやPTA総会等を通じて積極的に家庭に提供するとともに、教育相談の充実を図る。また、保護者会等への参加者の増加を目指す。
	○ICT機器の活用、書類や教材等の共有、組織的な取組等により、業務の効率化を図る。	○時間外勤務は、1か月45時間以内を目安とし、80時間を超えることはないようにする。

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
○更なる授業改善により、生徒が主体的に学び、考え、クリティカルシンキングにつながる授業を構築する。	1学年 社会と世界に目を向けながら幅広い知識を身に付け、社会貢献のための素地を作る。	朝読書をきっかけとして、読書そのものを習慣化することで幅広い知識を身に付けさせる。	
		面談や保護者会を通して進路に関する情報提供を行い、自身の適性に気付かせる。	
	2学年 自主自律の精神に基づき、自ら理想を求めて学ぶ姿勢を育成する。	授業、学年集会、学年だよりなど様々な場で生徒の考えや成果を発信する場を設け、一人一人に参加意識を持たせる。また多様な見方を認め合える雰囲気作りに努める。	
		総合的な探究の時間で現在や未来の諸問題を自ら調べ、自分なりの解決への提言ができるよう考えさせる。	
		朝読書を通して読書習慣を身に付けさせ、さらに読後の感想を学年だよりに寄稿してもらい、生徒同士の知的好奇心を刺激する。	
	3学年 知的好奇心を持って主体的に探究し続ける姿勢を養い、協働的に活動する姿勢を養う。	総合的な探究の時間の学年全体のテーマ「Happiness」について、これまでの探究を踏まえて考察を深め、それを言語化し、他者に向けて的確かつ効果的に発信する経験を積ませる。	
		学年だよりを通して、知的好奇心を刺激する内容を発信する。	
	教務 行事を含めた適切な授業計画を立案し実施する。	単位履修に必要な授業時数が確保された、年間の授業計画を立案する。社会情勢の変化に応じて、授業計画や行事についての柔軟な対応をはかる。	
		適切な時間割編成、日々の時間変更・調整によって、確実に授業を実施する。社会情勢の変化に応じて授業形態や時間割などの変更を行い、生徒の学びの場の保証に向けて方策を検討し実施する。	
	教務 新教育課程実施において、授業内容、指導方法、評価方法を継続検討する。	令和4年度から実施された新教育課程において、授業内容、指導方法、評価方法を継続して検討を行う。特に、令和4年度から導入された「統合型校務支援システム」の成績処理業務の必要に応じた修正をはかる。	
	教育情報 生徒や職員が図書・視聴覚教材・情報機材等を快適に使用できるよう、適切に管理と運用を行う。機材の利用を促し、生徒の活発な活動と職員の授業改善に寄与する。Wi-FiとiPadを活用した授業を推進する。	各教科や学年から情報を得て、生徒や教員が求めている資料を用意し、生徒の読書活動や探究的な学習を活性化するために、新着案内「らいぶらりい」を発行する。生徒の読書意欲向上のために「図書委員会だより」を年3回、「図書館報」を年1回発行する。	
		朝読書、課題研究、総合的な探究の時間、授業、進路探究に役立つ図書を選定し、有用な蔵書構成及び環境整備を行う。	
		生徒や職員がiPadを有効に使用できるよう、活用例を示したり、機器の設定、整備を行う。授業で使用するプリントや保護者配布資料の、ペーパーレス化を目指す。	
		情報教室の学習用パソコンと、校務用パソコンの入れ替えがスムーズに行われるよう、関係部署との連携を行う。Wi-FiとiPadの故障や不具合が起きたときに速やかに対応できるよう、業者やNEINサポートとの連絡を密に行う。	

○自らの意思で進路を決定させ、第1希望大学へ合格できる力を付けるよう導く。	1学年 生活および学習の基礎基本を徹底し、心身共に健康に過ごす。	5分前完了や自主的な挨拶・清掃活動ができるように指導する。			
		学校の授業を中心に、「予習」「授業」「復習」のサイクルを確立させる。			
	2学年 将来の進路に対する意識を高め、明確な目標を定め、それを実現するためのプラン作りを促す。	前期のうちに自らの理想と現在地のギャップを認識させた上で明確な目標を立てさせ、後期は5ヶ月プランとして決まった期間の中で成果を出す姿勢を育成する。			
		講演会を通して国内外の諸問題を知り、将来の仕事に対する志を高める。また、担任と副任による面談を通して生徒の問題解決能力を養う。			
	3学年 自己の進路実現のために見通しを持って行動できる力を身につけさせ、目標を実現するために、自律的・自発的に、計画性をもって行動する姿勢を養う。	担任・副任面談や教科面談を通して、目標とそれを実現するための取るべき方法を確認し、計画性をもって自己実現が図れるよう働きかけ、心理的なサポートを行う。			
		学年だよりを通して、進路情報を適切なタイミングで的確に提供し、それぞれの進路実現を図る。			
	進路指導 生徒が主体的に行動し，授業を中心として学力を伸ばすことにより進路実現ができるよう，「真理追究」「自主自律」「社会貢献」の教育目標に沿って生徒に指針を与える具体的できめ細かな進路指導を行う。	入試結果・分析および体験談等を掲載した「コンパス」を充実させ、進路選択の際に適切な指針を与えるものとする。また学年集会や保護者会等を通じて生徒・保護者に対し「コンパス」の活用を促す。			
		実力テストの作問・採点を通して、各教科で入試問題等の分析を行い進路実現へ向けた指導方法に対する教科研修の一助とする。また実力テスト結果は校内独自の指標を用いて生徒の指導に活用する。			
		各学年進路指導部は、卒業まで一貫した進路指導を行うために他学年の取組みを参考にしつつ担当学年の実情に合わせて改善を図る。また本校の指導に一貫性を持たせるため進路指導に関する職員研修を年5回行う。			
○規範意識と自主自律の精神の高揚を図り、リーダーとしての資質を涵養する。	1学年 自己理解を深め、互いに高め合いながら主体的に行動できる集団になる。	授業だけでなく、各種講演会を活用して、将来何が必要かを考えさせる。			
		部活動や学校行事、課外活動への参加を通して、他者との自発的な交流を促す。			
	2学年 社会に出てから通用する人間性と社会性を涵養する。また、集団における個々の役割を果たすことを促し、自己有用感を高めさせる。	昨年度定着した5分前完了や挨拶を継続し、これまで以上に公共スペースの美化に努める。			
		人権学習会やLHRで人権について考えさせ、人権感覚を高めさせる。SNSの利用の仕方について指導を行い、他人への思いやりを持った利用を促す。			
		青陵祭・青山祭・修学旅行・クラスマッチ等各種行事における仲間との協働活動に積極的に取り組ませ、組織で役割を果たす喜びを実感させ、個々の自己肯定感を高める。			
	3学年 最高学年としての自覚を持ちながら、場面に応じてリーダーシップを発揮し、集団を統率する姿勢を養う。	青陵祭で仲間と協働的・創造的に全体を創り上げていく経験を積み、部活動でも後輩に範を示しながら、集団をよりよい方向へ導く姿勢を育成する。			
		応援歌指導等で新1年生に適切に応援歌を指導しつつ、「本気」の姿勢を見せ「丈夫精神」を継承するよう導く。			
	生徒指導 基本的生活習慣を確立し、規範意識の高揚を図る。	登校指導では遅刻防止の呼びかけや服装指導を行うとともに挨拶の習慣を確立させる。また、自転車乗車時の交通ルールも併せて指導する。年2回、登校指導強化週間を学年と協力して実施する。下校時間については部活動顧問会議等で周知徹底を図る。			
		校内巡視やアンケートを実施し、問題行動やいじめの未然防止の取り組みと早期発見に努める。また、いじめや問題行動については組織的かつ迅速に対応する。			
		貴重品の管理やSNSの適切な利用について定期的に呼びかけるとともに、主体的に自己の安全を守れるような危機管理能力の向上を図る。			
	人権教育推進 人権に関する知的理解と人権感覚を基盤として、人権擁護を実践する力の育成を図る。	各学年で人権学習会を企画・開催し、人権に関する諸問題の現状把握や考察を通して自分自身を振り返り、人権に関する知的理解と人権感覚の向上を図る。			
		教職員が各種研修会で学んだことを職員会議で報告し、全職員が共有することで人権に関する知的理解と人権感覚を向上させる。また、人権だよりを作成して生徒・保護者に配布し、研修内容の共有を図る。			

○生徒の全人格的な成長を目指し、家庭との更なる連携強化を図る。	生徒指導 学校行事や生徒会活動・部活動への参加を積極的に促し、相互理解や自己の啓発を図るよう指導する。	部活動の加入率85％以上を目指し、更なる部活動の活性化を図る。			
		部活動顧問会議や部長会議を開催することにより、部活動を行う上での注意や必要な情報の共有を図る。			
		青陵祭やAOTYAMA WEEKへの取り組みが、学校生活の充実へつながるよう指導、支援し、生徒の人間的な成長を促す。			
		PTA総会、PTA委員会などの機会や、日頃の文書の配布、ホームページ掲載などによって学校の状況やいじめ対応の実態などを保護者に伝え、家庭との連携強化を図る。			
	保健環境 全ての生徒、教職員の心身の健康と安全が保たれ、快適に気持ち良く生活できるような環境づくりを目指す。 万が一の際に、自らの命そして他人の命を守れる迅速で的確な行動力を身につけ、災害や非常事態にも強い学校づくりを目指す。	【健康管理】 ・健康診断の目的を理解し、積極的に受ける態度を養う。 ①換気を行い、密にならない検査環境を確保する。 ②健康診断の受診率を100％にする。 ③検査結果（事後措置通知）を早期に配布する。 ④生活改善が必要な生徒には、個別指導を実施する。 ・感染症の予防 ①感染者の早期発見・対応で感染拡大を防止する。 ②手指消毒や適切なマスク着用、不調の際に登校を控える等の予防行動が自主的に行える。			
		【環境整備】 ・毎日の清掃による校舎の美化・消毒と、清掃監督を中心に校舎内外の安全点検を毎月実施し、安全面や用具等の整備を含め環境整備に努める。 ・AEDや担架等の管理に万全を期し、緊急時の救命活動につなげていけるよう意識を高めていく。 ・学校薬剤師と連携して環境衛生検査を実施し、その結果を周知して環境の改善を図る。 ・養護教諭不在時の保健室担当職員を配置する。 ・暖房機や冷房機の適切な使用と安全管理を十分に指導する。教室移動時の電源オフの徹底を図る。			
		【防災】 ・新潟高校総合防災計画に基づき様々な災害への対策を強化して、生徒の生命・身体の安全の確保並びに校舎等施設設備の安全を図る。特に事前対策の周知徹底と防災訓練の実施で緊急時に備える。 ・校内救急体制および近隣医療機関等の情報を整え、迅速で適切な対応がとれるよう共通理解を図る。			
	教育情報 保護者や地域に対して開かれた学校となるために、積極的な情報の発信を行う。また、PTA委員等の役員の選出がスムーズに行われるよう工夫する。130周年記念行事に向けた準備を、PTAと連携して進める。	学校ホームページの充実のため、分掌・学年・部活動へ呼びかける。緊急連絡用メールについて、緊急時の連絡が速やかになされるようにする。130周年記念行事に向け、PTA委員と連携して準備を進める。Googleサービスを活用して、保護者配付資料のペーパーレス化を推進する。			
		PTA委員会の有益な運営のために、委員会の中でそれぞれの役割をきちんと確認するとともに、分掌・学年との連携を密に行う。また、第2回PTA委員会の際に行われる講演会に関しては、保護者の希望を十分に踏まえることができるように事前に保護者アンケートを実施し、講師や内容の選定にあたる。			
		「PTAだより」を前期末と後期末の2回発行し、学校行事、部活動の成果、進路状況やPTA活動の様子など、様々な学校活動の情報を保護者に向けて発信する。また、「地域の声を聞く会」の開催を通じて、期待される学校像を検討し、開かれた学校づくりを推進する。			
	特別支援 様々な事情を抱え、また精神的・身体的な理由で特別に支援が必要な生徒に対し、生徒に寄り添い、理解を深め、情報の共有化を図り、組織的に、個に適した支援を行う。	担任や副任は生徒との個人面談や日常の学校生活を通して、各クラス生徒の実態を把握する。また各学年で「心や体の健康」に資する行事等を検討し実践する。			
		欠席や欠時数の多い生徒、または個人面談や教育相談で課題のある生徒については保護者や関係職員、保健室と連絡を密にし、その生徒の指導に当たる。また、職員全体で支援できるような組織体制を強化する。			
		特別に支援が必要な生徒がいた場合、特別支援相談班でその生徒の状況確認と対応を検討し、職員会議等で周知する。学校カウンセラーや支援が必要な生徒の保護者と連絡を密にし、生徒の理解を図るとともに、適切な対応と指導ができるようにする。			
		障害や特性の理解、具体的な事例を参考に対応力の向上に関する職員研修会を開催する。職員全体で特別に支援が必要な生徒に対し、組織的な対応や指導ができるようにする。			

○ICT機器の活用、書類や教材等の共有、組織的な取組等により、業務の効率化を図る。	1学年 ICT機器を活用することで業務の時短を図る。	GoogleClassroomを活用して健康観察やクラスの連絡を行う。	
	2学年 可能な限りICT機器を活用して業務を効率よく行う。	授業では状況に応じてタブレットや電子黒板を活用し、調査などはGoogleフォームで行えるものを増やす。	
	3学年 場面に応じてICT機器を適切に活用しながら授業改善・業務の効率化を推進する。	生徒1人1台配付されたタブレットや電子黒板を活用しながら、授業の中で効果的な活用を模索し、Google Classroomで生徒の健康観察やアンケートなど統計的な活用を進める。	
	教務 調査統計、広報などの諸業務においてさらなる業務の効率化をはかる。特に、統合型校務支援システムを運用することで業務の効率化をはかる。	ICTの活用を進め、調査統計や学校評価における情報の集約方法等の一層の見直しをはかり、作業量の削減をはかる。また、「統合型校務支援システム」を用いた関連業務の実施方法の検討を行い、運用面の整備をする。特に、成績・出欠処理、生徒指導要録や調査書などの各種証明書等の発行などの運用を行うことで業務の効率化をはかる。	
	生徒指導 適切にICTを活用することにより、業務を円滑にし、情報共有や伝達をスムーズに行い、時間の節約や業務負担減少化を図る。	掲示板や分掌フォルダを活用し、分掌内の連絡を円滑にする。また、生徒指導研修会の際に適切にICTを活用し、研修効果を高める。	
	進路指導 ICT等を活用して進路指導や探究活動等を活性化させる。	進路講演会等においてICTを活用したり各学年で資料を共有したりして、より効果的な印象を与えられるよう取り組む。また、探究活動においてICTを活用し、生徒の発表等を充実させる。	
	保健環境 適切にグループウェアを活用することにより、業務を円滑にし、情報共有や伝達をスムーズに行い、時間の節約や業務負担減少化を図る。	・グループウェアの掲示板活用や分掌フォルダの整理を行い、連絡や引き継ぎを円滑にする。 ・感染症情報システムの入力までの手順や方法を省力化する。 ・各種講演会の際に、適切に効果的にICTを活用し効果を高める。	
	教育情報 現状に合わせてPTA活動の見直しを行い、各会の時間短縮をすることで保護者の負担軽減に努める。	保護者の負担を念頭に、PTA委員会や役員選出がより一層円滑に進むように、各分掌や担任・学年部長との連携を強化する。Googleフォームを活用して保護者アンケートやPTA総会の議案承認などを行い、保護者と職員の負担を減らすように努める。	
成果			総合評価